
first contact/world break/UNICORN

神青雪由

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

first contact/world break/UNI
CORN

【Nコード】

N1149Z

【作者名】

神青雪由

【あらすじ】

主の描写力の向上の為の小説。

今回はガチ戦闘物語。主に政治や戦争が殆どです。

最も完全体に近い一夏くんです。篠乃之束と織斑千冬とこの世界に絶望し、失望し、この世界を破壊して、新たな世界を構築する、みたいな感じですか。

様に言えば、刹那 + 明智久司朗 + ICHIKAWA 今作一夏。

第一次UC戦争（前書き）

最早、再構築といたの方が早い気がする。

第一次UC戦争

悪い夢を見ているみたいだ。

アメリカ海軍アポロン艦隊第十六海洋部隊・リアグリス洋巡洋艦艦長、ジョーンズ・リカード左官は無意識に考えた。

元々、我々アメリカは太平洋上で中国・EU諸国連合・ロシアと戦闘を行っていた。

昨日に中国とロシアがアメリカとEU諸国連合に宣戦布告を宣言した。

それに対して勿論、アメリカとEU諸国連合は両国に抗議声明を出したが、

中国とロシアはそれを無視して進軍し、現在に至る。

最初は両国がミサイル及びISによる武力行為での威嚇。

それが運悪くEU諸国連合とアメリカの艦隊に直撃してしまったのだ。

それから乱戦に至り、敵味方の区別が付かない状態になっていた。

その後、我々が撤退行動をしようとした時、それは現れた。

空を紅く染め、上空から純白のISが音速を越えたspeedで急降下していた。

中国がロシアのISか？とIFFで識別しようもどうやら所属不明機のようなのだ。

「拡大しろ」

ジョーンズが命令すると空中投影ディスプレイに所属不明機が映る。

あれは・・・一角獣だ。希望の象徴、可能性の獣と謂われる聖なる獣だ。

一角獣の頭に全身を包む純白のフルスキン。

ジョーンズはなぜか言い様のない不安に包まれた。

その刹那、その所属不明機から全周波数で宣言した。

「現在より、EU諸国連合及びアメリカ・中国・ロシアの戦闘に介入する。大人しく戦闘を中止し、現海域から離脱しなければ武力で強制制圧を行う」

まるで何処かの中立部隊の様な声明を行い、威嚇射撃だと思われる砲撃を行った。

当然、四カ国ともその気はないらしく、戦闘機やISが所属不明機に飛翔する。

「・・・戦闘を開始する」

その瞬間に、

その所属不明機は消えた。

否、正確には消えたように見えただけでその手首から生えるBEAMSSwordで戦闘機を破壊し、超高速で移動しただけなのだ。

そして、銃？と思われる物を顕現化させて下に向けて三発ほど引き金を引いた。

それを下から見ていたジョーンズは戦慄した。

なんと銃から放たれた赤い閃光は下にいた十何機のISを巻き込んで、中国とロシアとアメリカの戦艦をたった三発のビーム攻撃で墜としたのだ。

その暴虐の赤い閃光はそれだけ破壊したのに関わらず、海水下に潜水している潜水艦も撃ち抜いたのだ。

水中で爆発的な化学反応で一寸した水素爆発が起き、海面から巨大な水柱が幾度となく発生した。

それで終わる筈もなく、所属不明機は近くにいたISをBEAMSSwordで破壊し、ビームマグナムから放たれる赤い閃光でISを吹き払い、戦闘機をドックファイト並のすれ違いで破壊する、という非常識極まりない戦いだっただ。

長い戦いの中で敵の危険を理解しているジョーンズは次々に破壊されていく四カ国の軍隊を見て理解した。

あれは、我々では何があっても勝てない。と

あれは、白騎士に匹敵する化け物だと。と

あれは、我々を完全に完膚なきまでに破壊する。と

それを認識したジョーンズは艦船員に対して命令を下す。

「緊急命令だ。機関部及び指令部・管制室を除く全ての船員は速やかにこの戦艦より脱出せよ！」

慌ただしく船員達は緊急用ボートを用意し、脱出準備をする。

・・・これで何とか私が時間稼ぎをすれば脱出要員は脱出出来るだろう。

その、刹那、

世界が白く染まり、

ズウウウウウン！！！！！！

ドカアアアアアアアン！！！！

まるで直下型地震が発生したかのような揺れが空間を揺らした。

「な、なにが起きた！」

ジョーンズは混乱した。ふと、空中投影ディスプレイを見て、目を見開いた。

あの所属不明機の下にある戦艦や戦闘機・ISが煙を上げなら墜ち

私達は、今、絶対的な滅びに曝されていると。

所属不明機はまるで流星の様に此方に飛翔し、ビームマグナムを此方にむけ、

容赦なくトリガーを引いた。

赤い閃光が機関部、管制塔、中間に直撃した。

白く、染まり逝く意識の中で、ふと海面を見る。

数十隻のボートが浮かんでいた。

ああ・・・彼等は無事に脱出出来たようだな・・・

その瞬間に完全に意識は消滅し、

この海からリアグリス巡洋艦は爆破し、消滅した。

その後は最早、一方的な戦いだった。

赤い閃光がISを破壊し、戦艦を撃ち抜き、バルカンで戦闘機を撃墜したり、BEAMSSwordでミサイルを破壊したり、と

戦闘開始後、たった20分で空中戦艦48艦、海上戦艦58艦、潜水艦24艦、戦闘機194機、ミサイル総数1241発を海の藻屑にへと変えたのだった・・・

この戦いから世界は緩やかに破壊され、本来の結末を迎える・・・

最早、狂い始めた歯車はもう、誰にも止めることは不可能。

いや、本来、在るべき世界に戻っていくのかもしれない・・・

我は印す、この世の真理を。かの星の翡翠に狂気と狂気の愛を籠めて我は印す。

封はアヌビスより来たりし、地の底に。

砕かれしとき、法を示し、呪いを受けるは、ノアの方舟にのりし二人の男女。

故に我は示し、警告する。その呪いを受けし者は 世界を破壊し、無垢なる存在へと還す。

Verum, sine mendacio, certum,
et verissimum:

Quod est inferius est sicut quod est superius,

et quod est superius est sicut quod est inferius,

ad perpetranda miracula rei unius.

Et sicut res omnes fuerunt ab uno, meditatione unius,

sic omnes natae ab hac una re, adaptatione.

H a e c e s t t o t i u s f o r t i t u d i n i s f

t a s .

I d e o f u g i e t a t e o m n i s o b s c u r i

d i .

S i c h a b e b i s g l o r i a m t o t i u s m u n

n f e r i o r u m .

e t r e c i p i t v i m s u p e r i o r u m e t i

e r u m q u e d e s c e n d i t i n t e r r a m ,

A s c e n d i t a t e r r a i n c o e l u m , i t

c u m i n g e n i o .

i l e a b p i s s o , s u a v i t e r , m a g n o

S e p a r a b i s t e r r a m a b i g n e , s u b t

r s a f u e r i t i n t e r r a m .

V i r t u s e i u s i n t e g r a e s t , s i v e

d i e s t h i c .

P a t e r o m n i s t e l e s m i t o t i u s m u n

e s u o ; n u t r i x e i u s t e r r a e s t .

P o r t a v i t i l l u d v e n t u s i n v e n t r

e s t l u n a .

P a t e r e i u s e s t s o l ; m a t e r e i u s

ratiōne solis .
Completum est quod dixi de ope

et totius mundi .
habens tres partes philosophia

megistus ,
Itaque vocatus sum Hermes Tris

les ,
Hinc querunt adaptationes mirabi

Sic mundus creatus est .

omneque solidam penetrabit .

quia vincet omnem rem subtilem ,

ortitudo fortis ,

所属不明機が四カ国の軍隊を全滅させた上にまるで、霧の様に消えてしまった。

人々はこれを白騎士の再来や平和を示す者とか色々噂は絶えない。しかし、一般人が考えている以上に事態は深刻なのだ。

この事態に対してIS国際委員会に対して篠乃之束は「あのISは私が作ったものじゃないよ」と宣言し、それを公式に発表した。

また、この事件名を「一角獣事件」と名付け、所属不明機を「UNICORN」と命名した。

それにより、世界中の軍や研究機関は血眼でUNICORNを捜索している。

因みに、その白騎士事件の当事者はと言うと……

IS学園で教師をしている。と言っても、原作程の覇気はない。

その理由は……10年前に最愛の弟の織斑一夏を失ったのだ。

第二回モンド・グロツソの大会決勝時に、一夏が何者か誘拐されて監禁されている。と言う情報がドイツ軍より入ったのだ。

その報告を聞いた瞬間に試合会場のenergyfieldを破壊

識はブラックアウトした。

その後、篠乃之家の人や同僚の力により何とか復帰したが、今現在でさえも千冬はこの世界を否定している。

篠乃之箒

大天災・篠乃之束の妹で、世界に対して激しい憎悪と憎しみと狂った愛を懐く「異端者」。

その考えは織斑一夏と一致するものがあると言える。

それは、狂気の愛情にして極めて無垢で純粋な愛情。

愛して、愛して、愛し尽した結果が今の「篠乃之箒」である。

自らの肉親が作ったこの壊れた世界に存在する二人目の「異端者」。

一夏と基本的に同じ精神なのだ。

壊れてしまったのなら、いつそのこと、壊して壊して壊し
尽くして、またゼロから始めればいいと。

それが故に二人は引き合う。

まるで磁石が鉄を引き付けるように……

罪と罰

それは、

鬼神だった。

アメリカ陸軍アルベルト・ブラック准将は思った。

かつて、ベルカとウステイオが世界を巻き込んで戦争を始めた。

通称「ベルカ戦争」。

その時、B7Rで脅威的なパイロットがいた。

ウステイオ空軍第6航空師団第66飛行隊ガルムのパイロット、

TACnameはcipher。

別名、「円卓の鬼神」

ベルカのエース達と国境なき世界のエース達、そして相棒の「片羽の妖精」を撃墜した事で有名である。

その圧倒的迄の強さは連邦軍の士気を向上させ、敵軍の士気を容易く破壊したという。

その戦争の時にベルカ人は7つの核を爆破させ、「ここからは我々の聖域である」と言うメッセージを世界に示した。

・・・それにより世界は軍縮に力を入れたがインフイニット・ストラトスと言う機動兵器によりバランスが崩れてしまったが。

しかし、今、私の目の前にあるのは一方的な破壊と言う名の蹂躪。

前日、我が祖国アメリカとEU諸国連邦とロシア・中華人民共和国との四つどもえの戦闘があった。

その時にとある一機のISにより四カ国の軍隊を壊滅させたのだ。

傍目は神話に出てくる獣、希望の象徴、可能性の獣。

それは一角獣。

所属国、機体名、登場者名、兵器名全てが不明なのだ。

まだ記憶に新しい「白騎士事件」を彷彿とさせる事件だ。

しかも、今現在、我が基地を襲撃しているのはその所属不明機、通称「UNICORN」。

何故だ？なぜ我々の基地が襲撃されるのだ？。

まさか無差別襲撃か？、いや、だったら他の国の基地も攻撃している筈だ。

「司令！」

部下のレーゲ・ウツソ少尉が飛び込んでくる。

「どうしたんだ？ウツソ少尉」

ウツソ少尉は慌てた顔で、

「IS部隊が・・・全滅しました。」

！？

思わずブラックは叫んだ

「IS部隊が全滅だと！？応援部隊はどうした！」

我が基地には第二世代ISが8機、第三世代が4機がいるのだぞと思っただがウツソ少尉の言葉によりその思考が凍りついた。

「しゅ、所属不明機の仲間と思われる紅いISに応援部隊はぜ、全滅しました。そして、その応援部隊の所属基地はその紅いISにより壊滅しました・・・」

ウツソ少尉の言葉に耳を疑った。

「なん・・・だと・・・」

ば、バカな・・・

応援部隊が全滅した上にその応援部隊が所属している基地が壊滅だと！？

なんなんだ！一体あれは・・・！

その刹那、全身に冷水を掛けられた様な悪寒が走った。

慌てて、二人は身を伏せた、その瞬間に自分達がいた場所が吹き飛んだ。

ブラックが顔を上げ、そこにいたのは、

紅いIS。

勿論、女性だ。胸が結構大きく張りがあることがスーツの上からでも分かる。美しく艶のある長い黒髪をポニーテールにしている。

顔は紅いバイザーで隠しており、伺えないが恐らく十代だろう。

しかし、その体から放たれている殺気は本物だ。しかも、その殺気は幾つもの戦場を駆けている本物の‘殺し屋’が放てる殺気だ。

並の人間ならこの殺気を浴びただけでも気を失うだろう。

私は賤しく長年軍人をしてる為にこのレベルの殺し屋とは幾度と無く戦ってきたが、ここまで殺気を放てる人間がいるだろう

ウツソ少尉はあの謎の女性から放たれる殺気をまともにも位、失禁した上に気絶している。

私も危うく意識を持って逝かれそうになった。

ふと、謎の女性を見る。

すると、その女性は、

嗤う。

その嗤笑を見た瞬間に刀が走り、ブラックの意識と共に基地は吹き飛んだ。

それを見て、ニヤリと満足そうに笑い蒼穹のカナタへ飛びさった。

共に白いIS、UNICORNと共に寄り添いながら、まるで番の様に・・・

IS国際委員会は混乱に満ちていた。

何の関係もないアメリカの基地ニカ所がUNICORNの仲間と思われる所属不明機により壊滅的な損害を受けて再起不能になった。

と言う報告がアメリカ政府から入った。

IS国際委員会はこれを受け、IS国際委員会に加盟している国全てに非常事態宣言を発表。また、今回新たに現れた所属不明機を「red」と命名した。

罪と罰（後書き）

世界ケータイ万能過ぎて困る

ホウキノココロ / second world break (前書き)

・・・なにをやってるだ、私はと少し公開している。

友人と居酒屋でお酒を飲んだついでに執筆したのだが・・・

相変わらずの文章構成力。余りの酷さに主の硝子のheartは粉々です。

さて、今回は、筈が如何にして一夏と同じになったかです。

多少不快感や不愉快さを覚えるシーンはありますがスルーの方向です。

因みにこの物語の筈さんのスペックは、

身長140cmに届くか届かないかというレベル。何故かISを装備すると原作レベル迄身長が戻る。因みに一夏は身長185cm

一夏にメモメモ。最早依存していると言っても過言ではない。

原作に出てくる筈とは違い、戦争に慈悲はなく、生きる者と死ぬ者がいると言うことを理解している。

剣の腕は千冬さんに匹敵し、なぜかキシユア・ゼルレッチを会得している。

戦いで自分より強い人間に遭遇すると筈さん HOUKIに変化して一時的な戦闘ジャンキーに変化する。

ヒイイイハアアアアア!

です。

第零世代専用機「シナンジュ」を装備すれば一個師団級の軍団を数分で鉄屑に還す。

シナンジュの制限を完全解除すれば千冬さんに勝てる確率は約80%。あの人は真正正銘の人外なので。

多分本気ですれば、一夏に匹敵する成果を挙げられる可能性大。

ホウキノココロ / second world break

あいつのことが。

ああ、よく知っている。

話せば長い

そう、古い話だ

知ってるか？

人間は3つに分けられる。

世界を憎んで憎んで愛して病まない奴。

憎しみや憎悪を抱かずに平和を過ごす奴。

戦いを生業として相手を殺す事で生を実感する奴

この3つだ。

あいつは

私は世界が、憎い。

しかし、この世界を私は愛している。

私の姉に当たる人、篠乃之束が作ったこの壊れた世界を憎み、憎悪し、愛している。

私は競争や賭事・闘い事をやっても勝ち取る物は何も無い。

否、最初から勝ち取る事が無いのだ。

そう、最初から相手が勝つことが決まっているのだ。

どんな方法を使っても、どんな卑怯な方法を使っても勝てないのだ。

故に篠乃之箒は歪んだ。歪まずはいられなかった。

それが篠乃之箒が「特異点」と成った瞬間だった。

・・・まあ、篠乃之束自体が「特異点」だが織斑一夏と篠乃之箒に比べると可愛い物だが。

私は・・・

私は壊れている。

いや、正確には歪んで捻れてしまった。

故に私は孤立する。

家族は才能が有り余る姉ばかりに手を回し、私には見向きもせずにした。

私には武術の才しかないのだ。姉の様に天才で尚且、父譲りの天才的な武道の腕と両方を持つ人には何をやっても勝てない。

今思えば、私が私で無くなって、私が私になったのは姉さんと比べられた時だった気がする。

それに私は姉さんの様に女の子らしく無いために小学校では男女と言われて苛められていた。

勿論、イジメは集団心理的な洗脳作用がある。最もその効果は幼少時に限るが。

それが故に私に味方する人間は居なかった。

しかし、とある時、私に味方する人間が現れた。

名は織斑一夏。姉さんの知り合いの弟らしい。

私が男女と言われて、私が唇を噛み締めて耐えている時に、

最前列にいた男子のおでこに十円玉が直撃した。

ふと、私が後ろをみると一夏が居て、

「大丈夫、箒。俺は箒を凄く可愛い女の子と思うよ？」

と頭を撫でて言ってくれた。

その時に何故か涙が溢れ、号泣してしまった。

その時からだろうか、一夏に恋慕を抱いたのは。

勿論、イジメをしていた奴等は一夏に色々と暴言を吐くが一夏は

「それがどうした？」

と心底呆れた顔で言った。

「もし次に箒を苛めたり、男女と罵ったりしたらこうなるぞ」

と10円玉を親指で弾いた。

その十円玉はヒュン！と音と共に飛翔し、コンクリートの壁にめり込んだ。

回りが静寂に包まれた。

しかし、この年代の子供は自分の主張が通らないと、苛立ちを覚えてしまう子も多い。

十円玉の直撃を食らった子の横にいた子が、

「ふ、ふざけんな！ やつちまえ！」

そう大声で叫び、後ろにいた子達は一夏に向かって走ったが、

ヒュン！と十円玉が飛び

パッシイイイイン

と先頭にいた子のおでこにクリーンヒットして2M程、確かに吹き飛んだ。

一夏はニヤリと笑い、

「まだやるか？」

すると、

「う、うわあああ！」

イジメっ子達とは蜘蛛の子を散らすように逃げ去った。

「大丈夫か、箒？」

と一夏は微笑みながら私を心配して言うてくれた。

私は、

「う、うん。大丈夫」

としか言えなかった。

「さ、帰ろうか。」

と私の手をやんわりと握って言った。

私はその時にはっきりと自覚した。

篠乃之箒は織斑一夏に恋心を抱いていると。

自分で顔が真っ赤になるのを感じた。

ふと、一夏を見ると、ニコツと私に微笑んだ。

・・・頭が真っ白になると言うことはこうゆうことか。

気付けば、私の家の前だった。

一夏は私が帰ってくるまでずっと手を握ってくれていた。

「ずっと私と友達でいてくれるか？」

と私は一夏に聞いた。

すると一夏はにこやかに、

「もちろんだ、箒。これからもずっと、な」

と言ってくれた。

そして一夏は最後に私の頭を撫でてから帰った。

ど、どうしよう!？。こんな顔では家に入れない。

結局、箒が自宅に入ったのは20分後だった。

・・・ちなみに私が一夏に十円玉を飛ばしたのは一体なに？と聞いたら羅漢銭という技法らしい。

その時から常に隣には一夏が居て、私を守り、私を勇気づけて、私に元気をくれた。

しかし、その後数年後に、私は絶望のどん底に突き落とされることとなった。

一夏が誘拐されて、殺された。と言う話を先生から聞いた。

その時に二回目の私が私では無くなって、私が私になった。

ああ、世界は、否、私は世界を拒絶し、受け入れる。そして壊れる程に愛そう。

基より、壊れている。ならばいつそのこと壊して壊して尽くして”ZERO”にしてしまおう。と

私は誓った。

その瞬間に私の”世界”が生まれた。

そして、理解する。

織斑一夏は死んでなどいない。と

その瞬間に後ろに気配が振り向いた。

そこには

一夏がいた。

「・・・ふう。漸く気付いたか。箒」

頭の中に矛盾点が入り込んでくる。

そして私は二回目の理解を果たす。

・・・そうゆうことなのか！

この世界の矛盾を理解する。

なぜ、一夏が死に、生き返り、私が苛められて、一夏が私を助けたのか、なぜ姉さんが天才でISなんていう機動兵器を発表したかを。

一夏は、

「俺と一緒に来るか？箒」

と私に問いかけた。

そんなものは端から決まっている。

「勿論だ、一夏。私は一夏と共に一夏と道を歩もう。私と一夏は、同じなのだから」

と私は答えた。

すると、一夏は何時もの微笑みを浮かべて私を抱き締めた。

ああ、これだ！私はこれを待っていた！

そう、体の奥底から湧き出るこの憎しみと愛情だ。

そして私は静かに口づけをしあつて、幼いながらも一夏を求めて、一夏はそれを受け入れて、

その夜、私達は一つとなつた。

まあ、私はもとより一夏に捧げるつもりだつたから、問題はなかつたが……

あんな気持ちよい行為とは知らなかつた。これでは駄目になつてしまふ。

……結論から言えば手遅れだつた。未だ16の身でこつなつてしまつとは……

その後、第一夏が世界に対して喧嘩を叩きつけたのが第一次UIC戦争の引き金となつた事はまだ知るよしもなかつた。

ホウキノココロ / second world break (後書き)

因みにこの物語で出てくる兵装は

ICBM

IRBM

SLBM

ALBM

集束爆弾

サーモバリック爆弾

GAUseries及びMseries系統のガトリング
金属蒸気レーザー

THEL及びMHEL

Optical Camouflage

SWBM

shock Cannon

Hi-TASM

READS

IRCM

Excaltibur

MIRV

Burst Missile

MPBM

MBSR

G-territory

斬艦刀

EML

VG合金

NT-Dsyste

ビームマグナム
マシンセル

など

赤く濁り純粹で澄んだ白い愛

それは何色にも変化しない色

故にそ

Ach, wie ist's möglich dann,
dass ich dich lassen kann!,
hab dich von Herzen lieb, das
glaube mir!
Du hast das Herz mein so gan
zgenommen ein,
dass ich keinen andren Lieb, al
s dich allein.
Blau ist ein Bl?mellein,
das heisst Ver?gessenheit;
dies Bl?mellein legt ans Herz un
ddenk an mich!
Stirbt Blum und Hoffnung glie
ch, wir sind an Liebe reich;
denndie stirbt nie bei mir,
dasglaube mir!

赤く濁り純粹で澄んだ白い愛

それは何色にも変化しない色

故にそれ

朝焼けが暗闇の大地を照らし、死が消え生が生まれる。

七十二の聖音と共にカンパネラの鐘が鳴り響き、ロンドンの街を祝福する。

ロンドンの片田舎にもその祝福の音が届く。

スフェリアス村の家にその二人が居た。

名は織斑一夏と篠乃之箒という。

傍目から見れば親子しか見えないが、歴とした夫婦であり、運命を共に迎える二人であり、純粹で濁りきった純白の愛情で結ばれている二人である。

その二人は昨晚も烈々に愛し合い、その存在を高めあい、両方の体が限界が来るまでその求愛行為を行った。

結果、先に箒が限界が訪れた、先に落ちた。

一夏も限界に近かったらしく、箒が果てて、数分後に落ちた。

その二人が寄り添う姿は一種の神々しさまで感じられ、一夏と箒の周りには甘く優しい空気が漂い、二人を見守る。

そのまま、二人は無垢なる微笑みを浮かべながら眠りに入る。

優しく、暖かい朝日が私を照らす。

一年前に一夏と共にこの村にやって来て幾度のこの優しい朝日の光で起こされた事が。

窓を開けて、朝日が上り、黄金色に染まった麦畑を見て、幻想的な風景に目を奪われる。

横を見ると一夏はもう起きているみたいだ。俺は下で朝食を作っているから降りておいで。一夏が私の体にそうメッセージを伝える。恐らく、私が起きた事を気配で感じたんだろう。

全く、一夏は私を虜にした上に私を墮落させる気か？と最近思う。

き、昨日も私が気絶するまで愛しよって……

(今更に真っ赤になる。相変わらずである)

それに、作る御飯も私よりずっと美味しいし……

……あれ？私の良いところ無いのでは？

そう一人で落ち込んでいると、不意に体が一夏に包まれた。

一夏は居ないのに、一夏が傍らにいる。

一夏の体温に包まれて、まるで母親に優しく抱きしめられているように感じ、安堵する。

・・・まったく、一夏は・・・

筭は狂喜じみた微笑みを浮かべながら、服を着替える。

私は一夏を抱擁し、一夏は私を抱擁する。

それは精神の共有であり、原始の精神の補完である。

始まりの異端にして、これから産まれるであろう、イレギュラーにしてレギュラーの存在の先駆けである存在の始まりである。

後の、数百年後に発生した異端戦争に至る発端になるのはまた別のお話。

一階に降りると一夏が朝御飯を作り終えた所だったらしい。

小麦で作られたパンの芳ばしい匂いが私のお腹がなる。

机の上にはサラダは勿論、パニーニや様々なドライフルーツが入っているパン・デ・エピス、蜂蜜で長期間ドライフルーツを漬けたフルーツ、パンドールなどのパンが美味しそうな匂いを醸しだしていた。

そして、朝早くに搾ったであろう、新鮮な牛乳が白くガラス瓶の中で揺れている。

エネレッソさんの牛の乳牛だ。

隣の農家のエネレッソ夫妻の牛達から採れる乳牛は本当に美味しい。

牛の乳牛はストレスや食べ物が関係するが、一番はやはり愛情だ。牛を飼う人が愛情を籠めて世話をすることでその分、美味しく、濃厚な乳牛が採れる。

乳牛を飲む度にその愛情が伝わり、エネレッソ夫妻が牛達に対する愛情がどれ程の物かが伝わる。

私達がこの地に移住してきた時からお世話になっている夫妻なのだ。

「さ、食べようか」

一夏がにっこりと私に笑いかけ、私に朝御飯を食べるように促す。

私はパンを口の中に入れて、モグモグと咀嚼する。

さて、このあとは確か、ドイツのシュヴァルツェ・ハーゼ隊の基地に強襲してV T s y s t e mの破壊及び、s y s t e mが搭載している機体の破壊だったはず。

と一夏に問いかける。

すると一夏は頷く。

一応、食事中のマナーとして喋らない様になっている。

会話は目で出来るしね。

ふと一夏と目が合う。

可愛いよ、箒

と、目で言われる。

耳までカアアアアア！と真っ赤に染まる感じがした。

一夏は私ににこやかに微笑みかける。

い、一夏は、いつもひ、卑怯だ・・・

結局、箒が正常な状態に戻るには結構な時間を要したのだった。

赤と白銀が天空を音速で飛翔する。

レーダーを掻い潜る為に電離層をステルスフィールドとアスレスを展開して翔んでいる。

下にはベルカの聖地が広がっている。

嘗て七つの核爆弾を起爆させ、自分たちの聖地をウステイオ・オリリア・オーシア・レサスに知らしめた。

それは、ドイツ・アメリカ・ロシア・新本・中華・アフガンとかの核保有国に大きな衝撃を与えた。

ベルカ事変とも呼ばれ、その核七発で死者は一千万人を超え、負傷者は数えきれない程に出たという。

その被害はオーシア・ウステイオ・サビン・・オーレリア・レサスに甚大な被害を与えた。

現在でもその傷跡は至る所にあり、完全に復興するにはあと数十年は掛かるだろうと言われている。

ふと、ベルカの遙か南方に位置するドイツに目を配る。

V T s y s t e m。ブリュンヒルデの動きをトレースする換わりに搭乗者の意識を乗っ取る禁忌の s y s t e m。

もし、あれがさらに開発されれば、物質DやシステムL I O Hが派生系として生まれる可能性が高い。

ならば、打てる手は打っておこう。

赤く濁り純粹で澄んだ白い愛

それは何色にも変化しない色

故にそれ

FF零式のアギトの塔が鬼畜過ぎて泣きそう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1149z/>

first contact/world break/UNICORN

2011年12月18日03時49分発行